

芦田川水系河川整備計画【国管理区間】の変更について

〔令和3年1月14日〕
河川課

1 要旨

一級河川芦田川水系における今後概ね30年の河川整備の実施内容をまとめている「芦田川水系河川整備計画【国管理区間】」（以下、「整備計画」）については、平成30年7月豪雨で生じた課題等を踏まえ、更なる治水安全度の向上を図るため、国土交通省中国地方整備局が令和2年12月10日付で整備計画を変更した。

2 経緯

変更前の整備計画では、策定当時戦後最大の洪水であった昭和20年9月洪水等を安全に流下させることを目標として設定されていたが、平成30年7月豪雨では、基準地点山手において観測史上最高の水位を記録し、当初河川整備計画目標流量を超過したことや近年気候変動の影響に伴う水災害の頻発化・激甚化を鑑み整備計画の変更が行われた。

3 変更内容等

(1) 整備目標の見直し

芦田川下流部において目指す治水安全度の水準は、資産状況及び気候変動による降水量の増大等を考慮し、以下の通り設定した。

- 府中市街地より下流部においては、平成30年7月豪雨による洪水と同規模の洪水に対し、浸水被害の防止を図る。（目標流量は基準地点山手で $2,400\text{m}^3/\text{s}$ （変更前： $2,100\text{m}^3/\text{s}$ ）とする。）
- 府中市街地より上流部の山間部では、平成30年7月豪雨による洪水と同規模の洪水に対し、家屋の浸水被害の防止を図る。（目標流量は主要地点府中で $1,400\text{m}^3/\text{s}$ （変更前： $1,200\text{m}^3/\text{s}$ ）とする。）

(2) 主な整備内容（河川整備計画期間は概ね30年）

| 整備箇所 | | 主な整備内容 |
|------|--|---|
| 芦田川 | 草戸・水呑地区 御幸・郷分・駅家地区 新市・芦田地区 中須地区 | 河道掘削を行い、整備目標流量を安全に流下させる。 整備にあたっては、浅場環境の創出やワンド・たまり等を保全するなど、地区に応じた環境への配慮を行う。 |
| | 土生・目崎・父石地区 | 河道掘削を行い、五ヶ村用水堰を改築し、整備目標流量を安全に流下させる。 堤防の整備により、洪水氾濫の防止に努める。 |
| | 八田原ダム | ダム下流の浸水被害防止のため、より効果的なダム操作や有効活用方策などを検討する。 |
| | 堤防の浸透対策、耐震対策が必要な箇所 | 浸透対策、耐震対策を実施する。 |
| | | |

芦田川水系河川整備計画【大臣管理区間】（変更）の概要

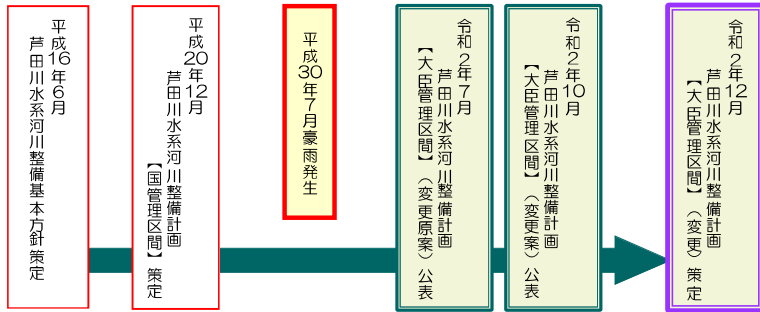
別紙

芦田川水系河川整備計画を変更します

芦田川水系では平成16年6月に長期的な視点に立った河川整備の基本的な方針を定める「芦田川水系河川整備基本方針」を策定しています。これに基づき、芦田川水系の国が管理する区間において、段階的な河川整備を行うための計画として「芦田川水系河川整備計画【国管理区間】」（以下、「当初河川整備計画」と記す）を平成20年12月に策定しました。当初河川整備計画は、平成10年10月洪水等からの浸水被害の防止または軽減を目標として、これまで河川整備を進めてきました。

しかしながら、平成30年7月豪雨では、基準地点山手において観測史上最高の水位を記録し、当初河川整備計画目標流量を超過したことや近年気候変動の影響に伴う水災害の頻発化・激甚化を鑑み、令和2年12月に芦田川水系河川整備計画【大臣管理区間】（変更）（以下、「変更河川整備計画」と記す）を策定しました。

変更の経緯



基本理念

備後の拠点都市にふさわしい安全・安心な川づくりを目指し、
かつ、将来を担う子どもたちに魅力あふれる芦田川を残す



計画対象期間

変更河川整備計画策定後から概ね30年間とします。

計画対象区間

本整備計画において対象とする区間は、右図のとおり、「大臣管理区間」です。



変更河川整備計画の対象区間

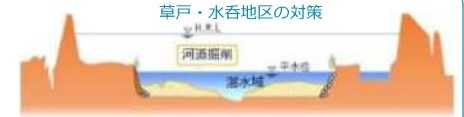
変更河川整備計画の目標及び実施内容

芦田川の整備や管理を行うための ■目標 と ●実施内容 について、概要をご紹介します。

洪水等

■人々が安全・安心に暮らせる芦田川に

・洪水に対して被害を防止又は軽減できるよう、ハード対策とソフト対策を一体的かつ計画的に進めます。



- 河道掘削（草戸・水呑地区）（御幸・郷分・駅家地区）（新市・芦田地区）（中須地区）
- 河道掘削・築堤・堰改築（土生・目崎・父石地区） ● 堤防の浸透対策 ● 地震・津波対策
- 防災活動拠点の整備 ● より効果的なダムの有効活用方策等の検討

水利用

■ふるさとの豊かな暮らしを支える芦田川に

・八田原ダム・芦田川河口堰による水の補給と関係機関との協力により、生活・産業等に必要なお水の安定的な確保に努めます。



- 八田原ダムや芦田川河口堰の適切な運用
- 水利使用者相互間の水融通の円滑化

河川環境

■ふるさとの豊かな自然と歴史をはぐむ芦田川に

・利用しやすい河川空間を整備するとともに、川らしい自然環境の創出を目指します。

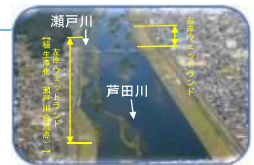


- 魚がのぼりやすい川づくり
- 瀬と淵の保全・整備
- 自然河岸帯の保全・整備
- 水辺へのアプローチの向上
- かわまちづくりの推進
- 八田原ダム周辺の地域づくりの推進

水質

■人々が集い、水にふれ、親しめる芦田川に

・魚類のへい死や異臭の発生、アオコ等の藻類の異常発生等によって、施設管理や空間利用に支障をきたさないように、良好な水環境の確保に努めます。



- 高屋川河川浄化施設の運転
- 八田原ダムでの対策
- 自然河岸帯の創出による自然浄化機能の向上
- 芦田川河口堰の弾力的放流による水交換の促進

維持管理

・安全・安心な暮らしが持続可能となるように、効率的かつ効果的な維持管理を関係機関や住民のみなさまとの連携を強化しながら、適正に実施します。



- 河川の状況把握のための調査
- 河川管理施設の維持管理
- 河道の維持管理
- 危機管理体制の強化 等

※ 動植物の生息・生育・繁殖環境や景観に配慮するため、専門家から意見・助言を得ながら実施します。
※ 地域の歴史や文化への配慮が必要とされる区域は、事業の進め方について、関係機関等と協議を行います。

芦田川水系河川整備計画【大臣管理区間】（変更）の概要

河川整備計画の変更のポイント

1 被害の防止・軽減に向けた治水対策の推進 (再度災害防止対策・河川における対策)

平成30年7月豪雨により、人口・資産が集中する府中市街地より下流区間で計画高水位を超過するとともに沿川の内水による浸水被害も発生していることから、洪水による浸水被害を防止・軽減するため、芦田川の水位の低減が必要です



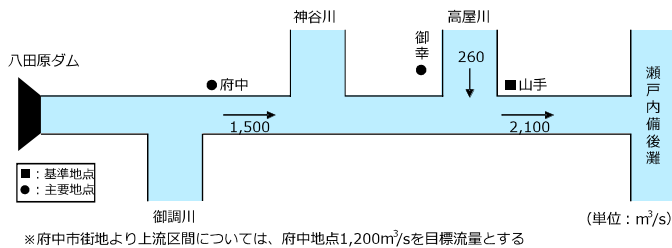
平成30年7月豪雨での被害状況

⇒河川整備基本方針に即した段階的な整備として、現行整備計画の上下流バランスを踏まえた目標を踏襲しつつ、平成30年7月豪雨等に対応するための治水に関する目標を新たに設定します

治水に関する目標

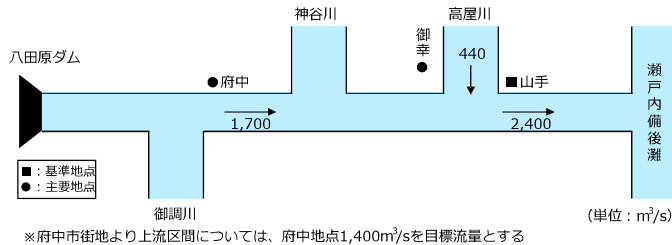
当初河川整備計画目標流量

- 府中市街地より下流では、戦後最大の洪水である昭和20年9月洪水が再び発生した場合においても、洪水を安全に流下させることができるように、治水対策を実施します。
- 府中市街地より上流部では、戦後第2位の洪水である平成10年10月洪水が再び発生した場合においても、洪水を計画高水位以下で安全に流下させることとします。



変更河川整備計画目標流量

- 府中市街地より下流部においては、平成30年7月豪雨による洪水と同規模の洪水に対し、浸水被害の防止を図ることとします。
- 府中市街地より上流部の山間部では、平成30年7月豪雨による洪水と同規模の洪水に対し、家屋の浸水被害の防止を図ることとします。



2 気候変動を見据えた事前防災対策の加速化 (河川整備の加速化、減災対策)

平成30年7月豪雨をはじめ、全国的には令和元年東日本台風(台風19号)等、気候変動の影響による近年頻発化・激甚化する降雨状況を鑑み、芦田川水系における今後の治水対策(事前防災)が必要です

⇒気候変動による水害リスクが顕在化する中でも、目標とする治水安全度を確保するため、河川整備の速度を加速化させます ⇒◎で対応

⇒より効率的なダムの有効活用方策等を検討
⇒今後の外力増大にも対応した治水対策として、整備計画目標を上回る洪水への減災対策を推進します

⇒◎で対応

3 減災に向けたさらなる取り組みの推進 (ソフト対策)

近年の洪水による教訓や水防災意識社会再構築ビジョンの取り組み等を踏まえ、関係機関との連携による減災のためのソフト対策のさらなる連携を強化していきます

⇒芦田川の特徴を踏まえたきめこまやかな情報提供や 防災教育、減災対策を推進します



危機管理型水位計

洪水ハザードマップ

主な整備予定箇所と実施内容

- ダム下流の浸水被害防止のため、より効果的なダム操作や有効活用方策などを検討します



八田原ダム

- 河道掘削を行い、五ヶ村用水堰を改築し、整備目標流量を安全に流下させます
- 堤防の整備により、洪水氾濫の防止に努めます



土生・目崎・父石地区

- 凡例
- 距離標 (河口からの距離)
 - 整備実施箇所
 - 堤防浸透対策
 - 堤防耐震対策

